

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和6年 9月 13日	
寝屋川市長 様	
提出者 住 所 大阪市都島区中野町4丁目-15-20 氏 名 三貴株式会社 代表取締役 水野 貴彦 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 06-6355-5334	
大阪府 寝屋川市 産業廃棄物処理課 受付 -6.9.13 令和6年 11月 9日	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	三貴株式会社（寝屋川市管轄内事業場）
事業場の所在地	大阪市都島区中野町4丁目-15-20（寝屋川市管轄区域内）
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	07 職別工事業（設備工事業除く）
② 事業の規模	10000万円（令和5年度元請完成工事高）
③ 従業員数	150名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	施工・発主 保管 収集 中間処理 (再生・縮減) 最終処分 再生品

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	排出量	104.3 t	58.85 t
	（これまでに実施した取組） ①解体工事の建設廃棄物総排出量目標値設定 ②産業廃棄物の削減方法 ・施工方法の検討による廃棄物削減 ・再生資源の活用		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	排出量	205.2 t	110.3 t
	（今後実施する予定の取組） ①解体工事の建設廃棄物総排出量目標値設定 ②産業廃棄物の削減方法 ・施工方法の検討による廃棄物削減 ・再生資源の活用		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ①解体工事の混合廃棄物単位目標設定 ②混合廃棄物の排出量を低減する事により分別を促進する
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ①解体工事の混合廃棄物単位目標設定 ②混合廃棄物の排出量を低減する事により分別を促進する

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
82.5 t	200 t	23350 t	920 t

②計画

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
120.3 t	350 t	31000 t	2100 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
46.28 t	330.78 t

②計画

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
90.5 t	680.2 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 取組なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定の取組なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 取組なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定の取組なし		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
0 t	0 t

②計画

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
0 t	0 t
0 t	0 t

②計画

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
0 t	0 t
0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 取組なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定の取組無		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	全処理委託量	104.3 t	58.85 t
	優良認定処理業者への処理委託量	104.3 t	58.85 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	58.85 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・再資源化ルートの確立 ・分別処分・仕分けの徹底		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
82.5 t	200 t	23350 t	920 t
82.5 t	200 t	23350 t	920 t
0 t	0 t	23350 t	920 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
0 t	0 t

②計画

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
46.28 t	330.78 t
46.28 t	330.78 t
0 t	0 t
0 t	0 t
0 t	0 t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類	②木くず
	全 処 理 委 託 量	205.2 t	110.3 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	205.2 t	110.3 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	110.3 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	①再資源化ルートの確立		
※事務処理欄			

②計画

③建設工事の木くず	④ガラスくず	⑤コンクリート破片	⑥アスファルト破片
120.3 t	350 t	31000 t	2100 t
120.3 t	350 t	31000 t	2100 t
0 t	0 t	31000 t	2100 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

⑦管理型混合廃棄物	⑧石綿含有がれき類
90.5 t	680.2 t
90.5 t	680.2 t
0 t	0 t
0 t	0 t
0 t	0 t

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は、記入しないこと。

